

## 第2次白山市総合計画 基本計画の各施策の事業評価

(★重点項目)

平成29年度実績

### 凡例

#### ※1 進捗状況

計画期間（H29～H38）を通しての進捗状況  
「施策の概要」に対する進捗について評価

- A：目標が達成された
- B：一定の進捗がある（達成に向けて進捗している）
- C：進捗は遅れている（達成が遅れる可能性がある）
- D：進捗は大幅に遅れている

#### ※2 達成度

当該年度に実施した取組に対する達成度について評価

- 1：目標を上回って達成
- 2：ほぼ目標どおり
- 3：目標を下回った
- 4：目標を大きく下回った

#### ※3 今後の方向性

今後の実施の方向性について評価

- 拡大：規模を拡大して実施
- 継続：現状のまま継続
- 改善：改善しながら継続
- 縮小：規模を縮小
- 廃止：廃止
- 終了：終了

事業評価【第1章 誰もが健康でいきいきと暮らし続ける続けられるまちづくり(健康・福祉)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>1-1-1 地域福祉の充実</b>								
2. 地域のつながりを深め、思いやりを育む活動の推進	★ 誰もが支え合う地域づくりの推進 ◎	長寿介護課 社会福祉協議会	B	子どもから高齢者まで異なる世代が交流し、地域のつながりを深めながら共に育ち合う、福祉共育推進事業を実施した。また、公民館や地区社協、児童館等を対象に福祉やボランティアについて理解を深め、思いやりの心を育む取り組みを実施した。	2	福祉共育推進事業 38回 福祉共育啓発講座 46回	継続	子どもから高齢者まで、福祉について学べる機会を継続して実施する。また、思いやりを育む取り組みとして、公民館等地域と連携し、引き続き実施する。
	★ 交流の場の提供 ◎	長寿介護課 社会福祉協議会	B	地域住民やボランティアが主体となって、地域内で多様な世代の人が交流し、地域のつながりを深めるため「ふれあいサロン」の設置、及び運営の支援をした。サロンの世話人同士の情報交換や研修の場として連絡会を開催した。	2	ふれあいサロン設置数 H28年度 104箇所 H29年度 120箇所	拡大	「ふれあいサロン」への助成を継続し、サロンのない地域には、立ち上げを支援する。
3. 公共施設等のバリアフリー化の推進	★ 住宅及び公共施設等のバリアフリー化	障害福祉課	B	住宅改修、日常生活給付事業を通じ障害のあるひとが暮らしやすい住宅の整備や教育施設については、改造や改築、新築ではバリアフリー整備を行っている。	2	障害のある人が暮らしやすい住宅、教育施設では、バリアフリー整備を行うことで学習環境の向上を図っている。	拡大	障害のある人が暮らしやすい住宅の整備を図るため、各種助成制度の周知に努め、住宅のバリアフリー化を推進する。また市内事業所を対象に手すりの設置に必要な簡易な工事費用及び物品購入への助成を行う。
		長寿介護課	B	住宅改修に関する助言を行い、高齢者が安心安全に暮らすことができる住環境整備を推進した。	2	高齢者の過ごしやすい住環境整備につながった。	継続	今後も事業を継続し、高齢者が安心安全に暮らすことができる住環境整備を推進する。
		公園緑地課	B	園路や駐車場等の一部を除き、バリアフリー化は概ね実施されている。	2	公園利用者に応じた各公園における必要性を考慮する。	継続	今後も必要に応じ、園路等のバリアフリー化を行う。
	★ 道路及び交通機関のバリアフリー化	障害福祉課	B	地域で暮らし社会参加をするため重要となる、歩道の段差や傾斜の改善、幅員確保の整備、視覚障害者用誘導ブロックの設置などを進め、安全な歩行空間の整備と確保に努めている。	2	路線バスやコミュニティバスに低床バスの導入を進め、障害のある人の乗り降りに配慮しているが、バスの便数が少ない、通っていない地域がある、駅構内のバリアフリー化されていないなど、積極的に利用しづらい面がある。	継続	公共交通機関を利用することが困難な障害のある人の地域の実情に応じた移動手段について検討します。
		土木課	B	平成28年度より森島町地内に歩道バリアフリー化事業及び笠間町で石川踏切拡幅工事を継続実施している。	2	継続事業に加え、新規事業の加賀野地区のバリアフリー化事業及び宮野前踏切拡幅工事も計画している。	継続	今後も高齢者や障害者のための移動や利便性・安全性の向上を図り、計画的な事業実施を関係機関と検討し、連携事業の増に向けて協議を進めます。
		交通対策課	B	加賀笠間駅東口を北陸新幹線補償工事に合わせてバリアフリー化した。	2	車いす利用者や足の不自由な方の加賀笠間駅東口から上りホームへの移動が可能となった。	継続	今後も運行事業者に対し、鉄道駅のバリアフリー化を求めるとともに、必要に応じ支援する。新年度更新のコミュニティバスについてもバリアフリー対応車を購入予定。

**事業評価【第1章 誰もが健康でいきいきと暮らし続ける続けられるまちづくり(健康・福祉)】**

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>1-2-1 子育てがしやすい環境づくり</b>								
1. 保育サービスの充実	★ 認定こども園・小規模保育園・事業所内保育園の整備促進	こども子育て課	B	法人保育園運営費の補助 認定こども園への移行 小規模保育園の認可	2	法人保育園運営費の補助 幼保連携型認定こども園へ2園移行 小規模保育園1園認可	継続	今後も高齢者や障害者のための移動や利便性・安全性の向上を図り、計画的な事業実施を関係機関と検討し、連携事業の増に向けて協議を進めます。
2. 子育て支援体制の強化	★ 夜間・休日小児医療の ◎ 診療体制の構築・充実	いきいき健康課	A	夜間小児救急医療を担う「金沢広域急病センター」が平成30年4月にオープン。	2	市域が大きく、カバーできない地域もある。	継続	周知に努める。
	★ 妊娠出産子育て期の切れ目のない支援体制の構築 ◎	いきいき健康課	A	母子保健型利用者支援事業を立ち上げ「子育て世代包括支援センター」が平成30年4月にオープン。	2	平成32年度までの開設となっており、県内では加賀市・能美市に次いでの開設。	継続	周知に努める。
<b>1-2-2 子どもたちを育む体制づくり</b>								
1. 家庭や地域の子育てカへの支援	★ 保護者の経済的負担軽減の推進	こども子育て課	A	多子世帯保育料軽減事業の実施	2	多子世帯の保育料を半額又は無料にすることにより、保護者の経済的負担の軽減を図った。	継続	多子世帯の保育料を半額又は無料にすることにより、保護者の経済的負担の軽減を図る。
2. 地域と保育・教育施設、学校等との連携強化	★ 放課後児童クラブ・児童館・児童センターの充実 ◎	こども子育て課	B	放課後児童クラブ2施設を建設し充実を図った。	2	放課後児童クラブの定員の増加。 児童センターの利用者数の増加。	継続	共働き世帯の増加に対応するための環境整備を行う。
<b>1-3-1 高齢者が健康で暮らしやすい環境づくり</b>								
1. 元気でいきいきと暮らすための環境づくり	★ 介護予防の推進 ◎	長寿介護課	B	包括支援センターの拡充により、各圏域で介護予防講座が実施され、介護予防に取組むボランティアの養成・活動支援も行っている。	2	各包括との連携により、地域の特性に応じた介護予防活動の推進につながった。	継続	継続的に介護予防活動(体操等)に取り組める場の充実を図る。
2. 地域で安心して暮らすための支援の充実	★ 認知症施策の推進	長寿介護課	B	地域包括支援センターが7か所に拡充されたことにより、圏域ごとに認知症に関する事業が展開されている。	2	各地域包括支援センターで認知症相談窓口・認知症カフェが開設され、より市民にとって身近に相談等できるようになった。	継続	今後も事業を継続し、効果的な事業になるよう内容。方法を検討するとともに、医療・介護との連携をより図っていく。
	★ 在宅医療と介護連携の推進 ◎	長寿介護課	B	在宅医療介護連携協議会を中心に、事業が実施され、連携が図られている。	2	サービス連携会議や研修会も実施され、地域によっては民生委員等の地域住民の参加もある。	継続	今後については、規模を拡大までではないが、連携参画する事業所を増やしたり、地域住民を交えた関係づくりを進めていく、またサービス連携会議から出された課題を抽出していく。
3. 地域での支え合いの体制づくり	★ 地域包括支援センターの機能の充実	長寿介護課	B	委託6か所、直営1か所の包括支援センターを設置し、機能は充実された。	2	各包括とも地域の特性を生かしながら、順調に目標は達成できた。	継続	今後も充実にに向けて取り組んでいく。
	★ 生活支援サービスの充実	長寿介護課	B	多様な主体の担い手として生活支援サポーターを養成し、地域での支え合いの体制づくりを図っている。	2	支え合いの担い手を養成した。地域の実情に応じた支え合いを進めていくことが課題である。	継続	今後は日常生活圏域ごとの生活支援コーディネーター配置や協議体の設置を行い、多様な主体による重層的な生活支援サービスの提供体制構築の支援を図る。

事業評価【第1章 誰もが健康でいきいきと暮らし続ける続けられるまちづくり(健康・福祉)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>1-3-2 障害者が安心して暮らせる環境づくり</b>								
1. 地域で生活できる基盤づくり	★ 相談支援体制の整備充実	障害福祉課	B	7つの相談支援事業所に委託を行い、相談窓口を充実させている。市の窓口においては、社会福祉士等が専門相談の対応を行っている。	2	相談支援専門員や関係機関の横断的なつながりにより、連携体制をとることができた。	拡大	障害者相談支援センターにおいて、定期的な困難ケースの事例検討を行い、相談スキルアップを図るとともに、関係機関との定期会議を開催し、連携体制を構築する。
	★ 情報・コミュニケーションの支援充実	障害福祉課	B	手話通訳者・要約筆記を派遣し、聴覚障害者の家庭生活及び社会生活における円滑なコミュニケーション支援を行なうとともに、タブレットの活用によりTV電話での対応の拡充を行なった。また支所との遠隔通訳が可能となった。	2	社会参加の機会が増えたことで派遣件数が増え、手話通訳者・要約筆記が足りない状況である。また、派遣制度に該当しない企業等からの依頼も増えてきている。	拡大	合理的配慮の提供のため、企業等が手話通訳や要約筆記を準備する際の派遣料の補助を行ない、情報のバリアフリー化を支援する。市内公立病院にタブレットを設置するなど、庁内以外での遠隔手話通訳を実施する。
	★ 高齢化する障害者への支援	障害福祉課	B	白山市共生のまちづくり推進協議会内に高齢障害者ワーキングが設置されており、高齢障害者の介護保険サービスへの移行について協議を行っている。	2	高齢障害者ワーキングにおいて、支援者に対する介護保険サービス移行に関するマニュアルを作成した。	継続	今後も障害福祉サービスから介護保険サービスへのスムーズな移行を図るとともにインフォーマルな資源を活用し、地域で暮らせるための理解と地域力の向上に努めていく。
2. 健やかな成長を支援する環境づくり	★ 障害児の支援体制の充実	障害福祉課	A	発達相談センターや子ども相談室との連携により、情報共有することで円滑な相談支援体制をとることができる。	2	療育に関する関係課と障害福祉相談支援事業所との連携体制もとれるようになってきた。	継続	各ケースについて、関係課が情報共有し、役割分担しながら支援体制を整備していく。
3. 社会参加を促進する基盤づくり	◎ 障害者の社会参加の促進	障害福祉課	B	障害者の自立と健康増進を図り、日常生活での生きがいを見出し、社会参加することを目的として、障害者パソコン教室、声・点字の広報支援、在宅障害者いきいき活動支援、点字・朗読奉仕員養成事業等を行っている。	2	点字・朗読奉仕員養成事業においては、参加申込者の減少が続いており、人数の確保が困難な状況となっている。	継続	文字による情報収集が困難な障害者のへの、広報や情報の定期的な提供ため奉仕員、支援員の要請を継続する。
		商工課	B	市内経済団体等への周知啓発や、労働関係機関と連携して障害者雇用の促進を推進している。	3	従業員が少数である企業が多いことや、障害者に適した工種が絞られるため、障害者の雇用が進んでいない。	継続	今後も市内企業に、障害者雇用の理解を進め、雇用拡大を図る。
4. 共生のまちづくり	◎ 合理的配慮の提供の推進	障害福祉課	B	合理的配慮という言葉が浸透することで、障害のある人への対応の意識が少しずつ高まってきている。	2	事例集作成や、職員マニュアルの作成により、具体的な配慮の方法の習得が必要。	継続	新規事業として合理的配慮提供支援事業を実施し、事業所等の合理的配慮の促進を行います。
	★ 差別を解消するための支援体制の充実	障害福祉課	B	障害者差別解消のための支援協議会を設置し、差別事例等の検討をしていく。	2	ハード面については、30年度新規事業により、市は事業者に対して合理的配慮の支援をしていく。	継続	障害者差別解消のための支援協議会を開催し、差別に関する事例検討を行い、あっせん等のスキルアップを行う。

**事業評価【第1章 誰もが健康でいきいきと暮らし続ける続けられるまちづくり(健康・福祉)】**

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度				
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性

**1-3-3 発達障害者が安心して暮らせる環境づくり**

1. 相談支援体制の整備	★ 発達相談の充実 ◎	発達相談センター	B	発達相談体制強化による個別相談が遂行されている。	2	幼児期・学齢期は関係機関との連携により、相談件数は伸びている。今後、就労期・成人期に向けての相談体制充実が課題である。	継続	今後も発達相談体制充実に向け、事業を進める。
2. 発達障害に対する普及啓発と交流促進	★ 対象者別講演会の開催	発達相談センター	B	対象者別に、発達障害に関する理解と支援の方法を学ぶ研修会を開催。	2	関係機関の研修参加者の増加に加え、一般市民の講演会等参加者が着実に増えている。	継続	引き続き、研修会等を通じ、市民等へ発達障害の理解を広げる。

**1-4-1 市民主体による健康づくりの推進**

1. 健康寿命の延伸	★ 人間ドックの検査内容等の充実	白山石川医療企業団	B	健診予約待ちの解消を目的とした増改築事業の計画策定。	2	平成30年度着工予定	継続	今後も、病気の予防、早期発見のため、人間ドックの充実は必須である。
	★ 生活習慣病の発症及び◎ 重症化予防	いきいき健康課	B	特に糖尿病を重点的に発症および重症化予防を進めている。	3	重症化予防を特に重点的に実施しているが、年々糖尿病予備群対象者が増加してきている。	継続	糖尿病および予備群が年々増加してきており、引き続き取り組む。
	★ 健康生活支援企業と連携した健康づくりの推進	いきいき健康課	B	会員向けの各種講座やカフェ、セミナーを開催し、健康に関する情報や会員同士での交流の場の提供により、健康づくりへのモチベーション維持を図っている。	2	各種講座やカフェ、セミナーなどの集団での対応に加え、個別の相談に対応するため、健康相談を開催し、個人の健康づくりの取り組みを支援する。	拡大	会員の増加と健康づくりへの「きっかけづくり」とそれが習慣化するための「継続支援」の一つとして、ポイント制度の導入を検討する。

**1-4-2 医療・救急体制の充実**

1. 地域医療体制の充実	★ 医療と介護が一体的に◎ 提供できる基盤の強化	白山石川医療企業団	B	公立つるぎ病院に併設したショートステイつるぎの増設を実施。	2	平成30年4月より稼働	継続	住まい、医療、介護、予防を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築を推進する。
	★ 地域医療支援病院機能◎ の充実	白山石川医療企業団	B	月1回近隣医療機関の職員向けに、医療関連の研修会を開催し地域全体の医療の質向上に努めている。	2	平成29年度は500名の参加実績。	継続	「地域医療支援病院」の指定継続のためかかりつけ医との連携強化に努める地域医療連携は今後の医療を支える重要な要素であり今後も継続して推進する。
	★ 地域医療連携ネットワーク◎ の強化と充実	白山石川医療企業団	B	包括同意による診療情報共有ネットワーク「いしかわメディネット」の運用開始。	2	県内医療機関における診療情報共有システム「IDリンク」および「いしかわメディネット」利用者の拡大。	継続	県内医療機関における診療情報共有システム「IDリンク」の運用定着とシステム活用機関の拡大に努める。

**1-5-1 健全な公的保険制度の運営**

1. 国民健康保険事業の健全運営	★ 生活習慣病の発症及び重症化予防【再掲1-4-1】	いきいき健康課	B	計画的に未受診者対策を実施し、保健指導も優先順位を決めて実施している。	2	新たな未受診者対策を打たないと、これ以上の受診率の向上は見込めない。	継続	今後も、未受診者対策を実施する。また、保健指導の対象者を明確化し優先順位を決めて実施していく。
------------------	----------------------------	---------	---	-------------------------------------	---	------------------------------------	----	---

## 事業評価【第2章 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり(教育・スポーツ)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>2-1-1 確かな学力の形成と豊かな心の育成</b>								
1. きめ細かな教育の充実	★ 特別支援教育支援員の配置	学校教育課	B	配置校では、特別な支援が必要な児童生徒への支援・介助ができています。	2	支援が必要な児童生徒に対して、状況に応じた支援をできており、児童生徒の安心・安定につながっている。	継続	支援が必要な児童生徒の人数が増加しており、今後も支援の充実のため、増員が必要である。
2. 外国語活動・英語教育の充実	★ 外国語指導助手の配置 ◎	学校教育課	B	小中学校で、ネイティブ・スピーカーと英語でコミュニケーションを取る喜びを、児童生徒に実感させることができています。	2	2名の増員により、より多くの授業で日本人教師と外国語指導助手のチーム・ティーチングを行うことができた。	改善	小学校での授業時間の増加や、中学校でのオール英語に対応するため、増員が必要であり、自治体国際化協会の斡旋以外からの雇用も検討していく必要がある。
<b>2-1-2 安全で快適な教育施設の整備</b>								
1. 学校施設の計画的な改修	★ 長寿命化対策の実施	教育総務課	B	石川小学校、笠間中学校及び北辰中学校で、大規模改造工事を実施した。	2	継続事業として、順調に工事が進んだ。	継続	新規に取りかかる2校の実施設計に着手する。
2. 学校施設の環境改善	★ 小中学校のエアコン設置の推進	教育総務課	B	松任小学校、千代野小学校、千代野小学校及び鶴来中学校に設置した。	2	継続事業として、順調に工事が進んだ。	継続	全校設置に向け、今後も事業を進める。
<b>2-1-3 子どもたちが安心して成長できる地域に開かれた環境づくり</b>								
2. いじめ・不登校対策の推進	★ スクールソーシャルワーカー等の配置	学校教育課	B	各校から派遣依頼を多数受けた。事案に応じて学校に助言したり、SSWが家庭に介入するなどして支援した。	2	登校や、教育センター通室につながったケースがある。また、そこまではなくても、学校と保護者の関係が改善したケースがある。	拡大	学校のニーズは多く、SSWの増員を考える必要がある。
<b>2-2-1 生涯学習を推進する環境の整備</b>								
1. 学習機会の充実	★ 市民ニーズに即した学習機会の提供 ◎	生涯学習課	B	公民館の委託事業として、各種講座の実施、社会体育大会や文化祭等住民ぐるみの事業を開催し、公民館だよりにより周知している。	2	事業をを実施すると共に、公民館だより発行することで、市民ニーズに即した学習機会の提供を行えた。	継続	今後も引き続き事業を実施すると共に内容の充実にも努める。
2. 生涯学習ネットワークの構築	★ 公民館施設の整備	生涯学習課	B	老朽化した施設を計画的に改築する。	2	老朽化した施設を計画的に順次改築、修繕を行った。	継続	今後も老朽化した施設を計画的に改築、または修繕を行っていく。

## 事業評価【第2章 地域ぐるみで豊かな心と体を育み健康で活躍できるまちづくり(教育・スポーツ)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>2-2-2 スポーツ活動を推進する環境の整備</b>								
1. 生涯スポーツの充実	★ 地域スポーツの充実	スポーツ課	B	うぐいす運動を28公民館で実施、スポレクフェスタの開催(3回809人参加)	2	地域住民の交流及び生涯スポーツの促進に貢献している。	継続	公民館と連携して継続していく。
	★ 健康・体力づくりの推進 ◎	スポーツ課	B	貯筋教室等各種運動教室の開催(10教室220人登録)、ジョギング教室の開催(31人登録)	2	市民の健康づくり・体力づくりが図られた。	継続	教室等の充実を図りながら継続していく。
2. 競技スポーツの振興	★ 選手の育成・強化	スポーツ課	B	ジュニア競技力向上事業として9団体にに対し助成。	2	ジュニアの強化・育成を支援することで、競技力の向上が図られた。	継続	競技団体と連携して継続していく。
3. スポーツ施設の整備・充実	★ スポーツ施設の整備・充実	スポーツ課	B	松任総合運動公園女子トイレ2箇所、白山郷体育館男女トイレを洋式化。	2	利用者の利便性が図られた。スポーツ施設の整備は今後も推進する必要がある。	継続	計画的に改修をすすめる。

## 2-2-3 青少年教育のための環境づくり

1. 子どもの権利の保障	★ 「子どもの権利」の啓発 ◎	生涯学習課	B	小学1年、4年、中学1年生に条例パンフレットを配布している。	2	小学1年、4年、中学1年生に条例パンフレットを配布した。	継続	今後も効果的な啓発に努める。
2. 児童虐待防止対策の強化	★ 関係機関との連携	子ども相談室	B	子どもの関わる施設に巡回訪問を年間2回実施する。	2	連携が密となり、支援や見守りが必要な子どもの早期発見、早期対応に繋がっている。	継続	相談内容に応じて、必要な関係機関に繋げ、連携し最善の支援となるようにする。
	★ 子育て講座の開催	子ども相談室	B	児童館・ひろば・小学校の3か所で実施	3	参加者からの評価は高いが、周知不足で依頼が少ない。	改善	関係機関に啓発周知に取り組み、計画的に開催する。

### 事業評価【第3章 人と地域の交流で笑顔が生まれる市民主体のまちづくり(市民生活)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>3-1-1 市民主体のまちづくりの推進</b>								
2. 各種団体・グループなどの自主的活動の促進	★ 地域を支える人材・団体の育成 ◎	生涯学習課	B	地域の人材を発掘、活用し、一人一人の力を地域に生かせるしくみをつくる。	2	学校ボランティア事業を通して、学校現場において地域の人材の活用を図った。	継続	多様な課題に対応できるよう、新たな人材の発掘、活用、育成に努める。
		協働推進室	A	地域資源を活用した取組を行う尾添、一里野地区に、集落支援員を派遣し活動支援を行った。	2	例年通り支援員1名、延べ3回派遣し、地域の魅力を発信するイベントを開催。参加者の増加に繋がった。	継続	地域の活性化を図る観点からも、今後も支援を継続していく。
3. 世代を超えた交流の促進、郷土愛の醸成	★ ふるさと学習事業の提供 ◎	生涯学習課	B	放課後子ども教室、土曜日の教育支援事業を通じて、子どもと地域を結び付ける。	2	放課後子ども教室、土曜日の教育支援事業を通じて、地域学習を行った。(H29:109回)	継続	子どもの参加、地域人材の活用の両面から地域学習を推進していく。

### 3-1-2 協働と共創のまちづくりの推進

1. まちづくりに関する取り組みの充実	★ 新たなまちづくりに向けた取り組みの推進 ◎	協働推進室	B	「まちづくり会議」において市の推進する「市民協働のまちづくり」について、地域代表の方々に説明を行った。	2	地区合同の意見交換会において、「協働のまちづくり」に対する議論を深めている。	拡大	「新たなまちづくり組織」や「地域予算制度」の創設に向け制度設計に仕組み、市民に対しても更なる周知を図り理解を広げていく。
	★ ボランティア意識の啓発 ◎ と参加の促進	社会福祉協議会	B	傾聴ボランティア講座(入門・フォローアップ)各1回 点訳ボランティア養成講座 全7回 音訳ボランティア養成講座 全5回 視覚障害者サポーター養成講座 1回 メンタルヘルスサポーター養成講座 全4回 福祉施設ボランティア担当者連絡会 年1回 災害VC関係団体研修会 年2回	2	様々な講座を実施することで、活動のきっかけとなる。養成講座の参加者も少しずつ増加傾向である。講座や研修会に参加することでボランティア意識も向上し、活動の活性化につながっている。	改善	今後も継続して、様々な養成講座を実施していく。また、より多くの市民の方に参加してもらえるような講座も検討していきたい。また、大学と連携し、若い方の参加を呼びかけたい。
2. 高等教育機関との連携体制の推進	★ 地域課題解決に向けた大学との連携による取り組みの充実	協働推進室	B	新たに北陸先端科学技術大学院大学と包括連携協定し、締結校は計8校となった。ほかに地域資源の掘り起しに取組む活動を支援する、「大学パートナーシップ事業」補助金を開始した。	2	「大学パートナーシップ事業」補助金では2件の事業を採択。従来の連携事業と合わせ、大学との連携強化に繋がっている。	継続	今後も地域課題の解決に向け、相互協力、連携強化のもと、様々な分野でも活動を展開していく。

### 3-1-3 思いやりのあるまちづくりの推進

2. 男女共同参画社会の推進	★ ワークライフ・バランスの推進 ◎	男女共同参画室	A	「白山市仕事と生活が調和する優良事業所」を表彰した。また、市民や企業に対し、情報提供やセミナー等で啓発活動を実施した。	2	平成29年度白山市仕事と生活が調和する優良企業に、2社を認定した。また、セミナー等の開催により、市民や企業の理解が深まった。	継続	引き続き実施
----------------	-----------------------	---------	---	---	---	--	----	--------

### 事業評価【第3章 人と地域の交流で笑顔が生まれる市民主体のまちづくり(市民生活)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>3-1-4 市民の市政への参画機会の拡充</b>								
1. 対話と参加による市政の推進	★ 市政参画機会の充実	企画課	B	市の条例や計画策定に当たってパブリックコメント実施し、広く意見を聴取するよう努めた。	2	パブリックコメントの実施 H29:6件実施	継続	引き続き市民の意見を広く聴くための方策を講じる。
		秘書課	A	「白山市審議会等委員の選任等及び市外郭団体等役員に関する基本方針」に基づき、公募委員の比率を全体の2割程度になるよう努めている。 平成29年度 公募51/196=26.0%	2	農業委員会委員、農地利用最適化推進委員については、法により公募100%で、それを除くと13.6%である。	拡大	農業委員会委員、農地利用最適化推進委員を除き、2割を超えるよう努めていくこととしたい。
	★ 広聴活動の充実	広報広聴課	A	まちづくり会議 28回実施 提案ハガキ 251件(215通) 提案メール 56件(52通)	2	まちづくり会議は全地区で実施。	継続	今後も広く市民の声を聴くために継続する。
2. 広報活動の充実	★ 広報活動の充実	広報広聴課	A	広報はくさん 全世帯へ配布 ホームページ・SNS ICTを活用 モバイル広報 拡充	1	☆ホームページ トップページにスライドショーを導入(H29.10.1) 災害用ホームページの導入(H29.11.1) ☆モバイル広報 スマートフォンタブレットアプリ「マチイロ」導入(H29.10.1) ☆動画広報 YouTubeに「白山市公式チャンネル」開設(H30.2.1)	改善	ホームページは見やすく操作しやすいように改修等行う。 動画広報の活用について検討する。
<b>3-2-1 豊かな自然環境の保全と継承</b>								
1. 自然環境・水環境の保全と継承	★ 森林及び里山保全再生活動などの推進	林業水産課	A	地域住民による松林保全活動が行われている。	2	美川地域平加地区において、抵抗性クロマツの補植を行った。(3月11日実施)	継続	今後も、地域住民による松林保全活動に対し支援する。
	★ 中山間地域農業の活性化支援	農業振興課	A	取組面積90.6ha(12地区)となり、計画を上回った。	1	継続地区に加え、新規地区も現れ、順調に取組面積が伸びている。	継続	今後も引き続き、制度周知を図り、新たな取組が行えるよう周知する
<b>3-2-2 生活環境の向上</b>								
1. 環境美化の推進	★ 環境保全活動の推進	環境課	B	市が主催する漂着ごみ等の海岸美化清掃を行っている。	2	市内の海岸全域で清掃作業が実施され一定の成果がある。	継続	今後も毎年6月に行う。
3. 斎場や墓地の整備	★ 斎場の再整備	環境課 白山野々市広域事務組合	B	斎場基本調査の実施。	2	基本調査を踏まえ複数の案が示された。	継続	基本調査の結果を精査し将来の斎場の在り方を検討していく。

**事業評価【第3章 人と地域の交流で笑顔が生まれる市民主体のまちづくり(市民生活)】**

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>3-2-3 循環型社会の構築</b>								
1. 廃棄物の減量化と適正処理	★ 廃棄物処理施設の再整備	環境課	B	一般廃棄物であるし尿及び浄化槽汚泥を希釈投入する施設を下水道処理場内に整備し、汚水処理施設の共有化・共同化を図る。	2	H29年度に汚水処理施設共同整備事業(MICS事業)に係る構成市との基本協定を交わしている。	継続	H30年度に基本設計・詳細設計を行い、H31年度以降、H33年度からの供用開始に向け建設工事等を進めていく。
		白山野々市広域事務組合	B	新最終処分場の建設工事をH30年度の供用開始を目標として行う。	2	H30年度から新最終処分場にて不燃物残さの埋立処分を行う。	継続	松任衛生センターの廃止、松任石川環境クリーンセンターの再整備などの検討を進める。

事業評価【第4章 市民の暮らしを支える快適で笑顔あふれる安全なまちづくり(都市基盤)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>4-1-1 公共交通の充実による生活の足の確保</b>								
1. 公共交通ネットワークの強化	★ 地域公共交通網形成計画の策定	交通対策課	B	H30年度から地域公共交通網形成計画の策定に取り掛かる。	2	早急に協議会メンバーを選定し、H30年度事業計画等の決定が必要である。	継続	地域公共交通会議を拡大し、地域公共交通協議会として網形成計画の策定していく。
	★ 地域公共交通協議会の設立	交通対策課	B	H30年度から地域公共交通会議を拡大し、地域公共交通協議会とする予定。	2	早急に協議会メンバーを選定し、H30年度事業計画等の決定が必要である。	継続	網形成計画を策定するとともに、これまでのコミュニティバス運行見直しも協議していく。
	★ 二次交通網の利用促進 ◎	交通対策課	B	JRや石川線のダイヤに合わせ、乗継に配慮しコミュニティバスのダイヤを一部調整した。	2	JRと石川線のダイヤ調整が十分ではない。	継続	運行事業者と調整しながら乗継に配慮した交通網を形成していく。
2. 鉄道の利便性向上と利用促進	★ 北陸新幹線整備の促進と環境対策	交通対策課	B	地元説明会を開催し、環境に配慮して工事(道水路付替え、駅舎の支障移転等)行っている。	3	加賀野地域の高架橋工事の発注が遅れている。	継続	引き続き、鉄道・運輸機構に対し安全で着実な工事を進めるよう働きかけていくとともに、地元説明会を開催していく。
	★ 在来線(仮称)西松任駅整備及び道路網の整備	交通対策課 土木課 都市計画課	B	新幹線車両所の活用による観光・産業振興PTにおいて、(仮称)西松任駅についても検討。	2	設置の可否については、県とJR等との協議となる。事業についても、JRの時からIRの時は未定。	継続	駅の概略設計、B/Cの算定を行いJRに必要性を働きかけていく。
	★ 並行在来線の利便性の維持向上	交通対策課	B	並行在来線の運行支援と利便性確保のため、計画的に拠出している。	2	IRいしかわ鉄道は現在採算は取れているが、敦賀延伸に伴い赤字となることが予想され拠出金の増額が見込まれる。	継続	県及び沿線市町等と利用促進策を展開していく。
	★ 石川線の利用促進及び鶴来駅の機能強化	交通対策課 都市計画課	B	鉄道軌道安全輸送設備等事業等に補助を行なった。沿線市町と協力し、利用促進策を展開した。	2	安全運行確保のための設備投資計画に基づき補助を行なっている。	継続	引き続き、安全対策も含めた設備改修に対し補助を行なっていく。
3. 生活バスの利便性向上と利用促進	★ 生活バス運行体系再編の検討	交通対策課	B	路線バスとの役割分担と連携をはかっている。	2	平成30年度運行のルート・ダイヤ変更を行なった。	継続	新たな交通網の形成に向けた網形成計画策定協議の中で協議していく。

事業評価【第4章 市民の暮らしを支える快適で笑顔あふれる安全なまちづくり(都市基盤)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>4-1-2 円滑な交流を支える道路網の構築</b>								
1. 広域的道路ネットワークの構築	★ 国道360号(小松白川連絡道路)の事業化に向けた調査の促進	土木課	B	地域高規格道路「小松白川連絡道路」として、平成6年に指定を受けており、事業化に向けた調査を進めている。	2	平成21年には、国と石川、岐阜両県を構成メンバーとする「小松白川連絡道路ルート帯検討会」が発足され、起終点が公表された。	継続	国へ県境部区間の早期事業化を要望している。
	★ 加賀海浜道路(加賀海◎ 浜産業道路)の整備促進	土木課	B	平成28年11月に手取川架橋区間の起工式が挙行され、平成29年7月より手取川架橋以北の道路計画が地元公表された。	2	地元説明会を実施したことにより、道路計画の沿線住民に周知された。	継続	県へ引き続き当事業の早期かつ着実な実施に向け要望している。
	★ 金沢外環状道路(海側◎ 幹線)の整備促進	土木課	B	これまでに、全線L=18.5kmのうち白山市乾町から金沢市大河端町間(L=12.7km)で側道部が供用している。	2	引き続き平成24年度から事業着手した金沢市大河端町から金沢市福久町間(L=3.2km)の整備促進が望まれる。	継続	県へ残る区間の金沢市福久町から金沢市今町間(L=2.6km)を整備区間に指定するとともに、沿線で大型店舗等の開発が進む乾東交差点から白山ICまでの本線部の早期着工を要望している。
	★ 国道157号(鶴来バイパス)の4車線化の整備促進	土木課	B	国道157号は、白山市や金沢市と福井、岐阜方面を結ぶ石川県の主要幹線道路ですが、安養寺町(加賀産業道路)から鶴来大園町(天狗橋詰)間については、2車線で暫定供用している。	2	金沢外環状道路の海側幹線側道の供用により、さらなる交通の円滑化並びに広域圏とのアクセス性が望まれる。	継続	国へ2車線で暫定供用している区間の4車線化が必要であり、4車線化の早期着工に向け事業推進を要望している。
	★ 国道8号の渋滞対策の推進	土木課	B	白山市地内の国道8号は、昭和58年に全線4車線整備が完成しました。その後の活発な沿道開発による急激な交通量の増大に伴い、渋滞が顕著となり、平成24年の春には乾東交差点から松任総合運動公園口交差点へ至る下り線の3車線化が整備され、円滑な交通が確保されるなど一定の整備効果が発現されている。	2	上り線(乾町-宮丸町間)は、特に平日の朝夕及び休日において、未だ渋滞が顕著となっており、区間全体が主要渋滞区間にされているほか、事故危険区間も存在している。	拡大	国へは早期に当該区間(松任拡幅)約4.0kmの渋滞対策の早期事業化を要望している。
2. 市内の道路ネットワークの構築	★ 市内主要幹線道路の整備促進	土木課	B	今後においても、県道金沢美川小松線や松任美川線及び市道E10号線や米永松本線の主要幹線道路の整備を継続して行う。	2	車道整備に加え歩道新設整備により車両の円滑な交通の確保とともに歩行者の安全確保が図られた。	継続	今後も車両及び歩行者の円滑な通行を図るため、計画的な事業実施を関係機関と検討し、連携事業の増に向けて協議を進める。
	★ 市街地における都市計画道路網の整備促進	土木課	B	今後においても、県道における(都)千代尼線や鶴来本町通り線の都市計画道路網の整備を継続して行う。	2	車道整備に加え歩道新設整備により車両の円滑な交通の確保とともに歩行者の安全確保が図られた。	継続	今後は車両及び歩行者の円滑な通行を図るため、県道三日市松任線の渋滞対策の改善についても要望している。

**事業評価【第4章 市民の暮らしを支える快適で笑顔あふれる安全なまちづくり(都市基盤)】**

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>4-2-1 移住・定住の促進</b>								
1. 定住施策の充実	★ 新たな住宅取得への支援 ◎ 援	定住支援課	A	従来の住宅取得補助制度(定住・若年・白山ろく・三世代)に加え、H29より、新たに中古住宅購入補助制度を新設。	1	区画整理事業や宅地開発等を背景に、利用件数は順調に推移している。 【課題】財源の確保	改善	H32年度以降の継続について協議の必要あり(要綱期限H32.3月) ※白山ろく・三世代除く
2. 空き家の利活用の支援	★ 空き家バンク制度による利活用の促進	定住支援課	B	パンレット、セミナー、個別通知等を通して制度のPRに努めており、利用件数は拡大傾向にある。	2	登録物件数を更に増やし、成約に結び付ける必要がある。	継続	引き続き、制度の利用促進を図る。

**4-2-2 安全で快適な魅力ある都市基盤の整備**

1. 河川・海岸の整備と保全	★ 河川・砂防事業等の整備促進	土木課	B	今後においても、県単河川修繕事業・河川防災事業及び通常砂防事業・急傾斜地崩壊対策事業・地すべり対策事業・緊急改築事業・県単土石流対策事業により河川・砂防事業等の整備を継続して行う。	2	二級河川の安原川の改修については、ほぼ完成しており、高橋川については、第3期改修区間の早期改修・第4期区間(上流部)の計画策定及び月橋大谷川の高橋川放水路への接続(整備)を推進している。	継続	国・県に対し河川事業の早期整備の実現及び土砂災害対策としての砂防事業の促進を要望している。
	★ 海岸整備の充実	土木課	D	白山市の直轄事業区間は、松任工区と美川工区の延長は7,563mとなっており、これまで人工リーフなどの海岸保全施設の整備が行われてきた。	4	美川海岸においては、平成5年度に「なぎさリフレッシュ事業」の認定をいただき、人工リーフ3基、緩傾斜堤620mの整備が進められていますが、平成16年度から事業が中断している。	改善	国に対し海岸利用者が安心して海岸の利用が図られるよう、緩傾斜堤や人工リーフなどの海岸保全施設の整備促進を要望している。
2. 公園・緑地の整備と緑化の推進	★ 都市公園の整備促進	公園緑地課	C	現在、下野・河合地区、白山眺望園地を整備中。	3	現在整備中箇所が完了した段階で、舟岡山・古宮公園を白山ろくテーマパークの区域に含めることを県に要望中。	継続	今後も県に対し、整備促進を働きかける。
		文化財保護課	B	舟岡山城跡の文化財的価値を明らかにするための範囲確認調査を実施した。	2	国指定の際に説明資料となる調査報告書を刊行することができた。	継続	次年度は地籍調査を実施し、国への具申に必要な具体的な作業に入っていく。
	★ 史跡公園の整備 ◎	文化財保護課	B	国史跡横江荘遺跡の保存活用計画策定作業と住民への普及啓発に努めた。	2	講演会等を複数回開催したことにより、地区住民の横江荘遺跡に対する理解と愛護精神の醸成が計られた。	拡大	次年度は史跡の公有化を図るとともに、シンポジウム開催を通じて、市民全体への普及啓発に努める。
	公園緑地課	B	今年度をもって城跡の範囲を確認するための発掘調査が完了。調査結果をまとめた報告書も刊行した。	2	史跡の範囲や学術的価値を確定することができた。指定の手続き上地権者の同意が必要なためその把握が課題。	継続	今後は地権者の同意をとりまとめ、国・県へ具申書を提出して、国史跡の指定を目指す。	

事業評価【第4章 市民の暮らしを支える快適で笑顔あふれる安全なまちづくり(都市基盤)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
3. 水道・下水道の整備 と適切な維持管理	★ 施設の集中管理体制の 整備	水道課	B	策定した白山市水道事業計画の中 で管理体制の明確化を明記。	2	災害時に備えて松任上水道センターの自 家発電設備の更新を行った。	継続	計画に添って施設の整備を継続す る。
		下水道課	B	下水道整備の全体計画等の見直 しの中で施設の統廃合も考慮しな がら集中管理体制の整備を検討し ていく。	2	マンホールポンプ場の故障通報装置の整 備を順次進めている。	継続	今後もマンホールポンプ場の故障 通報装置の整備を進めるとともに、 下水道整備の全体計画等の見直 しの中で施設の統廃合も考慮しな がら検討を進める。
		鶴来白山ろく上下水道課	B	平成32年4月の企業会計移行に向 け固定資産の整備を行っている。	2	一部不明なものがあるものの、概ね固定 資産台帳整備が進んでいる。	継続	整備した固定資産データを水道 会計システムに反映させ、企業会 計移行への準備を進める。
	★ 水道・下水道の統合化 の推進	水道課	B	今まで懸案事項であった組合営水 道を統合し、これらの水道施設に 安全で安定した水道を供給する為 に、計画どおり整備が進められて いる。	2	水道事業の変更認可を受け、給水区域の 変更が可能となった。	継続	組合営水道施設統合事業計画の とおり、民営簡易水道等との統合 を進めている。
		下水道課	B	公共下水道、農業集落排水の汚水 処理施設が30年近く経過しており、 白山市下水道全体計画(H27.3策 定)の方針に基づき、施設の更新 時期に併せた統廃合整備を進め る。(41施設を19施設に統廃合)	2	徳光農業集落排水設備の公共下水道接 続に向けた、施設の廃止手続きを行った。	継続	白山市下水道全体計画(H27.3策 定)の方針に基づき、計画的に統 廃合を進める。
		鶴来白山ろく上下水道課	B	白山ろく水道事業や農集施設の公 共下水道統合への事業の初年度 となり予定通り進めた。	2	中島町地内での送水管の布設、中島町の 公共下水道への統合を予定通り行った。	継続	地域と直結する事業なので、事業 に併せ地元説明も取り組んでいく 必要がある。
	★ 汚水処理施設共同整備 事業の推進	下水道課 鶴来白山ろく上下水道課	B	し尿処理施設を廃止し、一般廃棄 物であるし尿及び浄化槽汚泥を希 釈投入する施設を下水道処理場内 に整備し、汚水処理施設の共有 化・共同化を図る。	2	基本計画を策定し、国土交通省本協議を 進めている。来年度は詳細設計を行う。	継続	今後も、H33年度秋供用開始に向 けて計画的に事業を進めて行く。
		★ 下水道未接続世帯への 接続促進	下水道課	B	各戸訪問によるチラシ配布等の接 続促進活動を行った。	2	一定の接続効果があり無課金箇所も発見 できるが、訪問は負担がかかるうえ、留守 宅が多いこと。	継続
	鶴来白山ろく上下水道課		B	各戸訪問によるチラシ配布等の接 続促進活動を行った。	2	一定の接続効果があり無課金箇所も発見 できるが、訪問は負担がかかるうえ、留守 宅が多いこと。	継続	接続等の効果はあり、苦情も解消 できるため今後も継続して行いた い。
	4. 情報通信基盤の整 備・充実	★ 白山ろく地域の情報通 信基盤整備	情報統計課	B	白山ろくのCATV施設の老朽化に 伴い、設備更新のための基本設計 業務を委託した。	2	設備更新のための基本設計業務を完了し た。	継続

## 事業評価【第4章 市民の暮らしを支える快適で笑顔あふれる安全なまちづくり(都市基盤)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>4-2-3 魅力ある計画的なまちづくりの推進</b>								
1. 計画的な土地利用の推進	★ 都市計画の見直し	都市計画課	B	平成31年度末の白山都市計画マスタープラン策定を進め、計画的な土地利用の推進を図る。	2	白山都市計画マスタープラン策定委員会及び白山立地適正化策定委員会を立ち上げるとともに、市民アンケート調査により、課題を整理する。	継続	今後、策定委員会において、全体構想の策定、土地利用の誘導区域及び誘導方向の検討など計画策定を進める。
	★ 土地区画整理事業の促進	都市計画課	B	土地区画整理事業の実施により、将来を見据えた計画的な土地利用の推進を図る。	2	松任北安田南部地区及び横江町土地区画整理事業の推進及び駅北相木第二地区の事業実施に向け、地元や関係機関と協議し事業を進める。	継続	今後も、計画的な土地利用の実現のため、地元や関係機関と連携し、土地区画整理事業の推進を図る。
2. 中心市街地の魅力向上	★ まちなかへ誘導する魅力の整備	都市計画課	B	鶴来地区において、幹線道路整備を行い白山比咩神社へのアクセス向上を図るとともに旧加賀一の宮駅舎周辺整備等、地域の歴史、観光資源等を活かした整備を促進する。	3	レンタルサイクルの活用や既存施設を含む中心市街地の魅力の整備について協議会で検討し、事業が進められている。	継続	交通結節点から、まちなかへの誘導策として、まちづくり協議会でハード整備後の、施設運用について協議を進める。
	★ 既存商店街の活性化	商工課	B	商店街が開催する賑わい創出イベントの広報周知等の支援を行っている。	2	商店街の健全経営のため、管理負担が増している街路灯の移管等に取り組む必要がある。	継続	賑わい創出のため、空き店舗の活用など、効果的な施策に取り組んで行く。

### 4-3-1 災害に備えた対策

1. 防災対策の充実	★ 地域防災計画の充実 ◎	危機管理課	B	災害対策基本法の改正や市の組織変更等に伴い、年度末に該当項目を、適宜、修正している。	2	国、県の防災計画と連動しなければならないことから、改正の内容に合わせて、修正を行っている。	改善	市独自の内容を網羅していくのは困難であるが、地域の実態に合うよう県と協議を進めていく。
3. ライフライン等の確保	★ 橋梁等の耐震化事業の促進	土木課	B	今年度においても白山市における道路橋点検等及び橋梁長寿命耐震化事業を継続しながら行っている。	2	道路橋点検状況 ・平成29年度まで…584橋 橋梁長寿命耐震化事業 ・平成29年度まで…32橋	継続	国に対し定期点検は、他のハード整備とは異なり永続的な実施が必要のため、財政的に大きな負担を強いられている。また、供用している構造物に対し、5年に1度の点検という投資の負担軽減するため、起債対象となるよう要望している。
	★ 上下水道施設の耐震化推進	水道課	B	計画どおり、上下水道施設の耐震化を実施している。	2	平成29年度には、φ200mm以上の主要配水管L=370mの耐震管の布設を行った。	継続	平成30年度から白山市水道事業基本計画に基づき、効率的に事業を進めている。
			下水道課	B	平成26年策定の白山市公共下水道総合地震対策計画に基づき、マンホール浮上対策・特環6処理場減災対策)の工事を行い、有事の際に汚水処理機能の維持を図る。	2	継続的にマンホール浮上防止対策を実施している。	継続
		鶴来白山ろく上下水道課	B	石綿管更新事業、白山ろく水道事業を計画に基づき進めた。	2	石綿管更新事業を継続して行い、白山ろく地域への送水管も予定通り布設した。	継続	老朽化施設の更新のため、今後も継続して進める。

**事業評価【第4章 市民の暮らしを支える快適で笑顔あふれる安全なまちづくり(都市基盤)】**

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>4-3-2 地域防災力の強化</b>								
1. 地域防災体制の充実	★ 自主防災組織体制の強化 ◎	危機管理課	B	市の方へは、各地区から色々相談があるが、まだ、新たな組織は結成されていない。	3	何地区かでは、結成に向けて相談があったが、まだ、具体的な所まで至っていない。	継続	毎年の自主防災組織の報告書の提出に合わせて、地区防災組織の重要性を啓発し、また、結成に取り組んでいる地区については、引き続き、支援を行っていく。
2. 防災施設や防災資機材の整備・充実	★ 防災拠点の整備	危機管理課	C	防災拠点として本庁が位置づけられているが、防災倉庫や電源喪失した場合の本庁での災対本部体制は困難な状況のため、防災倉庫(備蓄庫)を併設した防災センターを整備する。	2	本庁の機能喪失に備え、業務継続計画にて、消防本部庁舎を代替機能庁舎として位置づけた。また、災害時における庁舎機能の補完点について洗い出し、関係課と情報共有しながら対策を図っていく。	継続	予算、用地等課題が山積されているが、第2次総合計画に位置づけられていることから整備を進めていく。
	★ 災害備蓄品の充実	危機管理課	B	災害時において、迅速かつ確実な食糧等の配布を行うため、森本富樫断層を震源とする地震被害想定約2,200人の3日分を備蓄する。さらに、トイレは災害時において特に重要な問題であることから、携帯トイレ、マンホールトイレ等の整備を進める。	2	現在、防災備蓄率は食糧、水等合わせて、概ね100%である。また、近年ではアレルギーに対応したごはんや、カレーライスなどを備蓄に追加し、災害時においても、食を楽しむことで、心身ともにリラックスできるように配備を図っていく。	改善	防災備蓄品は、期限が3年～5年となったり、期限が切れたものは廃棄しなければならない。そのため、期限前に防災訓練で使用する等の食品ロスの対応を考えていく必要がある。
<b>4-3-3 消防体制の充実</b>								
2. 常備消防の充実	★ 高齢化社会に伴い増大する救急要請への対応の強化	広域消防本部	B	バイスタンダーを増やすため定期的に救命講習を開催するとともに、質の高い救命処置を継続できるよう救急救命士に生涯教育等を受講させた。	2	各種救命講習受講者数については、近年の平均を上回った。	継続	引き続き各種救命講習を開催し、バイスタンダーをさらに増やしたい。指導救命士を計画的に増員し、救急救命士の能力向上に努めたい。

**事業評価【第5章 賑わいと活力がみなぎる元気なまちづくり(産業)】**

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			①進捗状況	②実施状況	③達成度	④成果・課題等	⑤今後の方向性	⑥今後の方針・理由等
<b>5-1-1 安定した所得を確保できる基盤の整備</b>								
1. 農業の振興	★ 水田フル活用による農業所得の増大	農業振興課	A	2年3作の作付体系の維持や確立、また複合経営を行い水田のフル活用を図った。	2	生産調整の実施し、米価の安定に努める、農家所得の維持拡大を図る。	継続	今後も引き続き水田のフル活用を推進し、農家所得の向上を図る。
	★ 園芸作物生産の推進	農業振興課	B	白山ねぎ、ブロッコリー等の施設・機械整備を実施し規模拡大が行われた。	2	複合経営等による人手不足の解消や、機械施設が今後も必要である。	拡大	今後も引き続き園芸作物を推進し、農家所得の向上を図るとともに、担い手の確保も図る。
	★ 地場農産物販売施設(道の駅)の整備・充実	農業振興課	A	29年度において施設が完成した。	2	29年度において施設が完成した。	終了	29年度において施設が完成した。
2. 林業の振興	★ 森林整備の推進 ◎	林業水産課	A	林業事業者が、いしかわ森林環境基金を活用して実施する森林施業や、森林施業集約化に必要な地域活動に対し支援を行っている。	2	基金事業の説明会の開催、森林所有者の意向調査・現地確認、整備対象森林のとりまとめ、協定書の策定、施業集約化の促進、森林境界の明確化等を行った。	継続	今後も、林業事業者が森林経営計画により実施する森林施業や、森林施業集約化に必要な地域活動(森林境界の明確化等)に対し支援する。
<b>5-1-2 鳥獣被害対策の推進</b>								
1. 鳥獣被害対策	★ 被害対策の普及啓発と情報の発信	林業水産課	A	「広報はくさん」や「まちかど市民講座」等を活用して被害対策及び補助事業の周知を行っている。	2	「広報はくさん」を活用して被害対策及び補助事業を周知するとともに、鶴来公民館主催の「大人の社会科授業」として「まちかど市民講座」を開催(3月16日実施)。	継続	今後も、「広報はくさん」や「まちかど市民講座」等を活用して被害対策及び補助事業の周知を行う。
<b>5-1-3 地産地消の推進とブランドの育成</b>								
1. 地産地消や食育の推進	★ 地元産品の消費拡大の推進 ◎	地産地消課	B	地産地消推奨店スタンプラリー、地産地消簡単料理レシピ募集事業などに取り組んだ。	2	地産地消推奨店スタンプラリーについては参加店舗が前年より増加した。	継続	今後も、生産者や事業者と連携したイベントを開催し、周知活動と並行して地元産食材の消費拡大に取り組んでいく。
2. 6次産業化の推進、新たな特産品づくり	★ 6次産品のブランド認証の推進 ◎	地産地消課	B	他の自治体の取り組みについて情報を収集し、本市の制度について整備。	3	今年度については認証品が無かった。	継続	1次産品のみならず、6次産品のブランド化を進めることは、6次産業化の推進にもつながるため、今後も継続していく。

## 事業評価【第5章 賑わいと活力がみなぎる元気なまちづくり(産業)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>5-2-1 立地の良さなどの特長を活かした工業の振興</b>								
1. 企業誘致の促進	★ 工業団地の整備	企業立地室	B	山島工業団地2期造成事業に着手	2	山島工業団地の分譲用地が10,000㎡余りとなっていることから、新たな工業用地の整備が必要となる。	拡大	新たな工業用地の開発手法について関係機関と調整し、造成整備を進める。
	★ 企業誘致の促進 ◎	企業立地室	B	首都圏などの企業立地フェアなどに出展し、白山市の魅力をPRを行い企業誘致を進めている。	2	山島工業団地に新たに2社の立地が決定した。残りの分譲用地(10,000㎡)の企業誘致を進める必要がある。	継続	就労の場と税収の確保を図るため、企業立地を進める。
2. ベンチャー企業への支援	★ 創業への支援 ◎	商工課	B	起業家支援事業による起業実績もあり、起業に関する相談も受けている。	2	起業家支援事業の実績もあるが、地域による対象業種が限られているため、起業が促進される環境づくりが必要。	継続	今後も、制度の充実等を図りながら、起業家支援の施策を推進する。
3. 工業用水の確保	★ 工業用水の活用	水道課	B	松任工業用水道については、計画どおり施設整備を実施し、H29.7より供用開始した。鶴来工業用水道においても計画どおり施設整備が進められている。	2	H29.7には、松任工業用水道を供用開始した。鶴来工業用水道においても順次施設整備が進められている。	継続	鶴来工業用水道では、順次施設整備を進め、事業所からの増量要求に対しては、計画的に施設増強を図る。
<b>5-2-2 企業への支援による活力の創出</b>								
2. 産学官金連携・異業種間交流の促進	★ 産学官金の連携 ◎	企業立地室	B	マッチングハブ金沢に出展し、産学官金の連携を図っている。	2	マッチングハブ金沢2017に出展し、産学金から情報収集を行った。情報収集から、新たな企業の誘致に繋げていく必要がある。	継続	マッチングハブ金沢などイベントに出展し、産学金から情報収集するとともに新たな企業の誘致に繋げる。
<b>5-2-3 商業の振興によるまちの賑わいの創出</b>								
2. 空き家・空き店舗の活用などの出店しやすい環境づくり	★ 商店街における空き店舗、空き家等の活用	商工課	B	商店街空き店舗に4件の店舗開店支援を実施している。	2	空き店舗に対する需要はあるが、業種や開店時期に対応できる支援制度へ検討する必要がある。	継続	継続して、商店街空き店舗や空き家の活用を積極的に図る。
	★ 白山ろく地域における空き家の活用	商工課	B	白山ろく地域の空き家への起業家4件について支援を実施している。	2	白山ろくでの起業需要があるため、引き続き空き家等への紹介などを行っていく。	継続	継続して、空き店舗や空き家の活用を積極的に図る。
<b>5-3-1 若者の地元就職の促進と安定した雇用の確保</b>								
2. UIJターンの促進	★ 労働環境向上への支援 ◎	商工課	B	公的労働機関やハローワーク等と連携し、情報発信や啓発を行っている。	2	長時間労働や、最低賃金等についての啓発がなされ、周知がされつつあると感じられる。	継続	今後も継続して、関係機関と連携し、労働環境向上への施策を推進していく。

事業評価【第6章 自然・歴史・文化と人が交わり元気に輝くまちづくり(観光・文化)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>6-1-1 観光客を呼び込むための環境の整備</b>								
1. プラットホーム機能の充実	★ 観光連盟の機能の充実	観光課	B	地域の観光情報を集約し全国に発信するためホームページ開設、着地型旅行商品の販売、誘客イベントの実施、マスコミキャラバン、教育旅行商談会、エージェンツ商談会等を実施。	2	ホームページアクセス数、着地型旅行商品の販売数共に順調な伸びを示している。	拡大	H30.3.30に日本版DMO候補法人として登録を受けたところであり、今後、地域の関係者を巻き込んだ「観光地経営」の視点に立った取り組みが必要とされていることから、市はこれらを支援し、観光・産業振興策の構築及び誘客者数の増加につなげていく。
2. 人材の育成と確保	★ 観光ガイドの育成	観光課	B	ジオツアーガイド講座等を実施し、ガイドのスキルアップを図った。ボランティアガイド協会の育成に係る補助金交付。	2	白山比咩神社などの観光客を中心に需要が伸びており、スキルアップを図る。	継続	観光客のニーズに合った観光ガイドを育成し、着地型旅行商品の質の向上を目指す。
3. 観光拠点の充実	★ 産業観光の拠点充実 ◎	観光課	B	産業観光をテーマとした観光産業の活性化を図る。	2	白山総合車両所のビジターセンター建設計画に歩調を合わせ準備を進めている。	拡大	白山総合車両所ビジターセンターの進捗状況に応じ事業を拡大する。
		白山総合車両所等活用対策室	B	新幹線車両所の活用による観光・産業振興ビジョンを策定した。	2	自民党PTのもと、国・県・JR西日本と実務者協議を進めていく必要がある。	継続	今後、ビジョンを踏まえて事業の具現化を図っていく。
	観光課	B	白山開山1300年を活用した地域のイベントを支援し、観光地の魅力アップ事業による誘客促進を図った。	2	白山開山1300年に合わせ、従来のイベントを拡充して実施し、イベント入込客集の増につなげた。観光拠点の充実に向けた旅行商品の造成。	継続	地域資源にさらなる磨きをかけ、利用状況やニーズを勘案し、整備・拡充を図り、地域の活性化につなげる。	
	施設管理課	B	市営スキー場再生への取り組み〔スキー場整備計画策定業務、コース測量調査業務、油圧ショベル更新1台〕	2	市営スキー場再生に向けた今後8ヶ年の整備計画の策定に着手した。	拡大	・H30除雪ドーザー1台、 小型除雪機3台 ・H30中にスキー場再整備計画を決定しH31より実施予定	
<b>6-1-2 地域の魅力の発信</b>								
1. 白山・鉄道などの魅力の発信	★ 白山の魅力の発信 ◎	観光課	B	白山開山1300年記念事業の実施により全国に白山の魅力を発信した。	1	白山ろくへの入込客及び白山登山者の増加など、「白山」への関心を高めることができた。	縮小	H30で記念事業を終了し、白山手取川ジオパークを活用した観光情報発信に移行する。
	★ 鉄道のまちの発信 ◎	観光課	C	白山総合車両所のビジターセンター建設計画に歩調を合わせ準備を進めている。	2	鉄道3整備工場を核とした鉄道のまちの情報発信を行う	拡大	産業観光を重点とした施策の一環として情報発信を行う。
		白山総合車両所等活用対策室	B	新幹線車両所の活用による観光・産業振興ビジョンを策定した。	2	自民党PTのもと、国・県・JR西日本と実務者協議を進めていく必要がある。	継続	今後、ビジョンを踏まえて事業の具現化を図っていく。
2. 観光商品の開発と発信	★ 着地型旅行商品の開発 ◎	観光課	B	新たに「尾添下山仏拝観」「みそぎ体験」を発売し、白山開山1300年を記念した商品造成により誘客を図った。	1	白山開山1300年を活用した商品造成により、販売数の増加につながった。	継続	PDCAサイクルにより、新たな造成とブラッシングを進める。
	★ 広域圏での観光商品の開発 ◎	観光課	B	近隣自治体との連携事業の他、加盟自治体のまとめたパンフレットの作成や配架等により一体となった誘客宣伝を実施。H29は開山1300年特集を展開。	1	広域で一体となり白山開山1300年を活用した誘客を図ることができた。	継続	継続して広域観光の促進を図る。

## 事業評価【第6章 自然・歴史・文化と人が交わり元気に輝くまちづくり(観光・文化)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>6-1-3 広域的な観光の推進</b>								
1. 環白山・加賀地域など広域観光の推進	★ 近隣自治体との連携した事業の実施 ◎	観光課	B	パンフレットの作成配架、イベント会場でのPR、モニターツアーの実施等観光誘客の推進。	1	白山開山1300年に関連する事業を実施し、PR・誘客を促進した。	継続	継続して加入団体が連携した事業を推進する。
2. 北陸新幹線延伸に向けた広域的な誘客の促進	★ 関西圏・中部圏からの誘客の強化	観光課	B	マスコミキャラバン、教育旅行商談会、エージェント商談会への参加を実施。	2	新幹線延伸を見据えた関西、中部圏からの誘客。	継続	継続して市のPR・観光商品の販売を進める。
3. 海外誘客の促進	★ インバウンド事業の推進 ◎	観光課 交通対策課	B	多言語ホームページの運用 ウルトラマラソンの外国人誘客 英語版チラシの作成 等	1	多言語ホームページを活用した情報発信の強化	改善	外国人来訪者の増加と連動した事業推進を進める。 コミュニティバスに外国語表示も検討していく。
		国際交流室	B	H28年度作成の外国語パンフレットを国際交流事業の際にお渡ししている。	2	金沢にきた外国人を白山市まで足を延ばしてもらうことが課題。	継続	引き続き、外国人に本市のPRを推進する。

## 6-2-1 品格と文化が感じられるまちの形成

1. 文化の創造と推進	★ 文化活動の推進 ◎	文化振興課	B	文化振興事業補助金(市単独)事業の実施。	3	H28年度の約半数の実績周知の方法及び仕方	継続	補助金を活用してもらうように各種会合でのPR(H28・29の事例を挙げる)
3. 歴史遺産や伝統文化の保護・継承	★ 史跡の整備と活用 ◎	文化財保護課	B	鳥越城跡附二曲城跡の案内看板を設置したほか、台風被害による破損個所の復旧工事を実施した。	2	経常事業に加え、臨時事業に対しても柔軟に対応している。	継続	復元工作物等の老朽化が目立ってきており、再整備を図っていきたい。

## 6-2-2 自然や歴史のブランド力の向上

1. 世界に向けた活動の推進	★ 白山手取川ジオパークの活動の推進 ◎	ジオパーク・エコパーク推進室	B	アクションプランに従い、事業を推進している。	1	ジオガイド養成講座を実施。認定ガイド8名誕生。	継続	今後も効果的な事業を推進する。
	★ 白山ユネスコエコパークの活動の推進 ◎	ジオパーク・エコパーク推進室	B	普及啓発活動の推進。 管理運営計画の策定の推進。	2	管理運営計画(基本構想)の作成。	継続	今後も効果的な事業を推進する。
2. 観光資源のブランド力の向上	★ 観光拠点のブランド力の向上 ◎	観光課	B	白峰観光協会によるチラシ製作、HPリニューアル、案内人養成講座の実施 高山植物園を活用したガイドツアーの実施。	2	観光地のブラッシングを進める事業者と協働してブランド力の向上を進めることが必要。	継続	地域の魅力、体験を提供することで、付加価値をあげ、ブランド力の向上を目指す。

**事業評価【第6章 自然・歴史・文化と人が交わり元気に輝くまちづくり(観光・文化)】**

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>6-3-1 国内・国際交流の推進と多文化共生の推進</b>								
1. 友好交流の推進	★ 海外への情報発信	国際交流室	B	国際交流員を活用し、看板や刊行物の翻訳等で各課の依頼に対応した。ほうらい祭りの英語ガイドツアーを行った。	2	英語以外が多くの面で未対応である。	継続	国際交流員を活用し、英語による情報発信を行う。
2. グローバル化に対応する人材育成と活用	★ 市民のグローバル化への対応 ◎	国際交流室	B	国際交流協会による国際料理教室を実施した。国際交流協会30周年記念事業として『ジヤナグルジュニアコンサート』を開催した。	2	異なる文化を広く市民に接していただくことで、グローバル化を促進することができた。	継続	引き続き、国際交流協会が主催する形で各種事業を実施予定である。
3. 多文化共生の推進	★ 外国人住民の地域参画 ◎	国際交流室	B	公民館事業に外国人住民が参加(河内・館畑・石川)、地域のイベント等に外国人住民を募り、交流を深めた。また、外国人住民が読み手となって英語読み聞かせを実施した。	2	キーパーソンとなるような外国人住民の発掘が必要である。	継続	公民館等と連携して外国人住民の参画を推進していく。
4. 国際交流組織の機能充実と連携強化	★ 国際交流協会の体制強化	国際交流室	B	国際交流サロンに常駐1名と非常勤1名の職員を配置している。	2	賃金の低さから職員の確保は今後困難になる可能性がある。	拡大	平成30年4月に国際交流サロンの移転を予定しており、機能の充実を図る。

## 事業評価【第7章 市民の信頼に応えるまちづくり(行財政)】

基本的方向	施策の概要 (★印は重点項目) (◎印は重点プロジェクト)	担当課	H29年度					
			① 進捗状況	②実施状況	③ 達成度	④成果・課題等	⑤ 今後の方向性	⑥ 今後の方針・理由等
<b>7-1-1 行政サービスの向上</b>								
1. 行政情報の提供と適正な管理	★ 情報セキュリティの抜本的強化	情報統計課	B	石川県セキュリティクラウドへの接続業務の施行。	2	高い水準でのセキュリティ対策を講じ、インターネット接続ポイントの集約化を行い、セキュリティ監視の共同利用を行った。	継続	サイバー攻撃や人為的なミスによる個人情報等の流出を防ぐため、今後とも情報セキュリティ対策の強化を図っていく。
2. 広域連携の推進・強化	★ 連携中枢都市圏における連携推進	企画課	B	構成市町による首長会議、ビジョン懇談会、連絡調整会議(担当課長会議)等を通じ、広域的な連携を進めるため、継続的に研究・協議を行っている。	2	本市から提案した「白山ろくスキー場の広域利用の促進」のほか、歴史遺産活用事業、公衆無線LANの整備、CIR(国際交流員)の配置 等新たな事業が「石川中央都市圏ビジョン」に追加され、連携事業に広がりを見せている。	継続	引き続き連携市町と研究・協議の上、広域的な連携が効果的な事業について推進していく。
<b>7-1-2 効率的な行政組織の確立及び職員の人材育成</b>								
1. 簡素で効率的な行政組織の確立	★ 市民にわかりやすい組織の確立	職員課	B	来年度の組織機構の見直しを行い、市民にわかりやすい課の名称等に変更した。	2	市民ニーズに即した組織の確立が不可欠である。	改善	毎年度見直ししながら、市民にわかりやすい組織の確立をしていく。
2. 職員の意識の向上と能力開発の推進	★ 女性職員の活用	職員課	B	個別に行動計画を策定しており、達成目標をクリアしている。	2	管理職員への活用に向けて人材育成が大切である。	継続	今後とも、積極的な活用を図っていく。
<b>7-1-3 行財政の健全化</b>								
1. 効率的・効果的な行政経営	★ 総合計画の進捗管理と適切な評価	企画課	B	総合計画チェックシートにより、施策の進捗管理と評価を行っている。	2	総合計画審議会の意見を踏まえ、第2次白山市総合計画に合わせたチェックシートを新規に作成し、全庁で評価を実施。	継続	総合計画の進捗確認と評価が効果的に行われる仕組み作りを推進する。